

青少年の意識に関する調査結果報告書（概要版）

（令和5年3月）

1 調査の目的

本県における青少年の意識や行動を把握して、青少年に関する施策の総合的な推進のための基礎資料を得るとともに、得られた結果を広く県民に紹介することにより、青少年の健全育成に対する理解と協力を得る。

2 調査の方法

質問紙とインターネットの併用による無記名調査

3 調査の対象

県内の小学校6年生	384人（16校）
県内の中学校2年生	380人（16校）
県内の高等学校2年生	354人（12校）
合計	1,118人（44校）

4 調査の実施期間

令和4年8月から令和4年9月まで

5 調査項目

- (1) 地域のこと
- (2) 学校のこと
- (3) 家族・家庭のこと
- (4) 自分のこと
- (5) 新型コロナウイルス感染症流行下の心の状態
- (6) メディア・コミュニケーションのこと
- (7) 読書のこと
- (8) 世の中のこと
- (9) 就労に関する意識
- (10) 社会の価値観の変化に対する意識

6 調査実施主体

青森県環境生活部 青少年・男女共同参画課

7 調査の監修

弘前大学教育学部 教授 田名場 忍 氏

8 主な調査結果

次項以降のとおり

報告書（全体版）



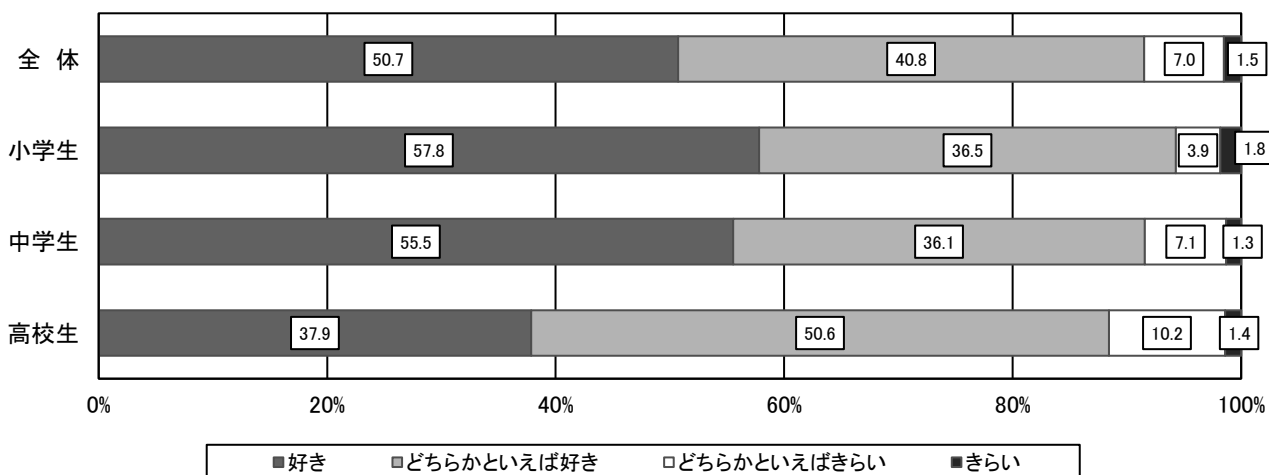
I 単純集計結果

1 地域のこと

<住んでいる地域への評価> (報告書 P.9~10 問2(1))

住んでいる地域が好きかどうか尋ねたところ、「好き」が50.7%で最も高い。「好き」と「どちらかといえば好き」を合わせた『好き』は、91.5%となっている。

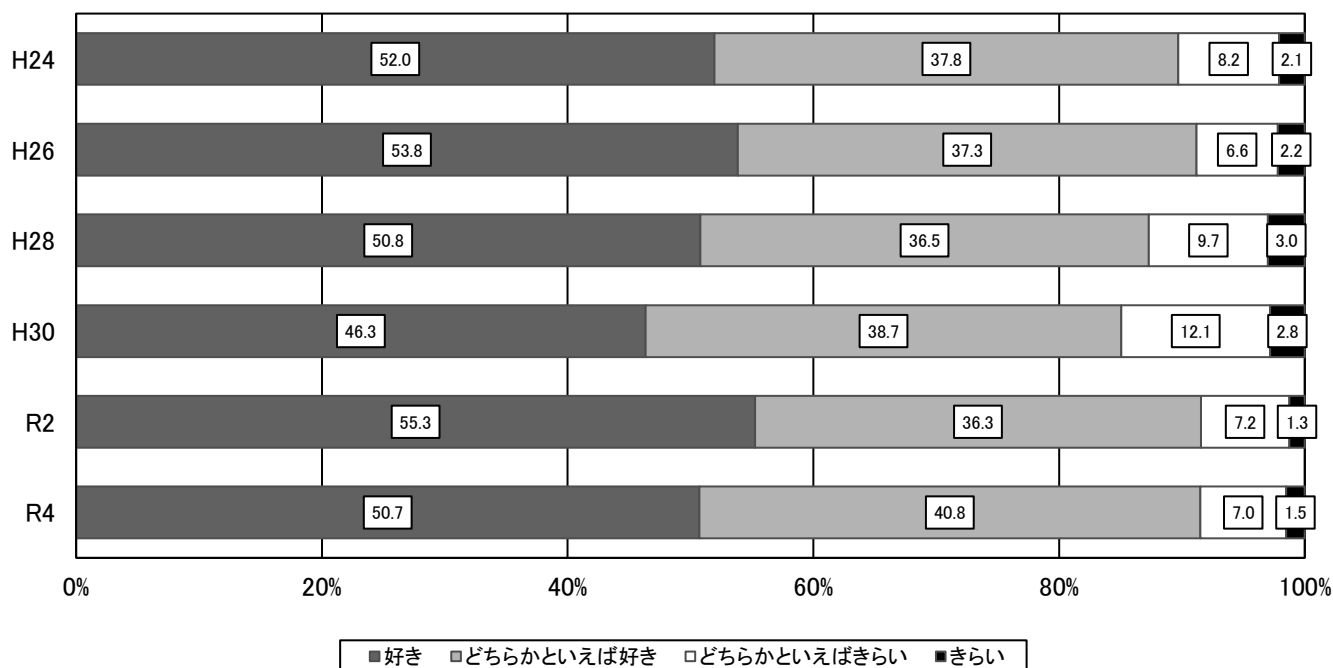
図1-1 住んでいる地域への評価(N=1,118)



(経年変化)

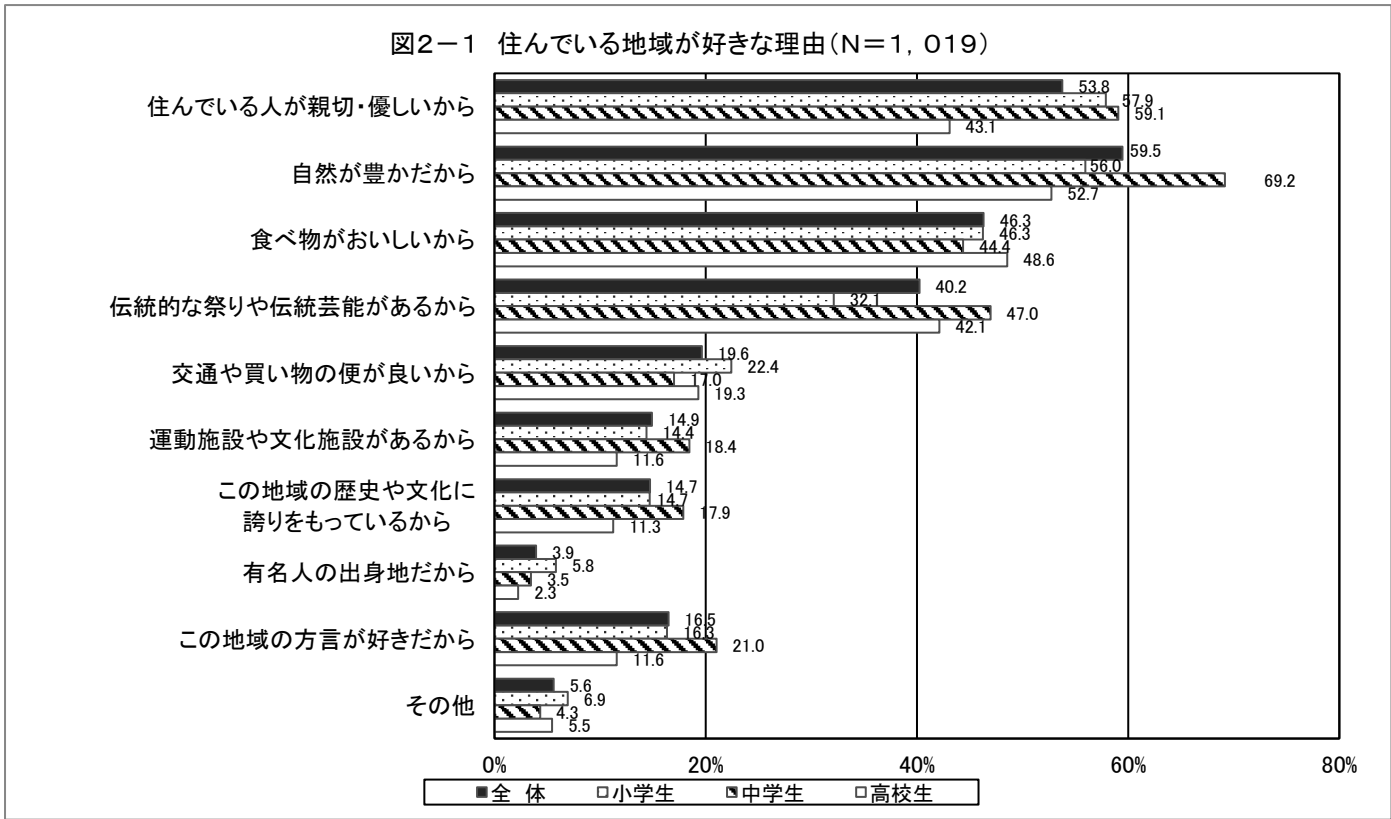
『好き』は、減少傾向にあったが、令和2年度に増加してから横ばいとなっている。

図1-3 住んでいる地域への評価



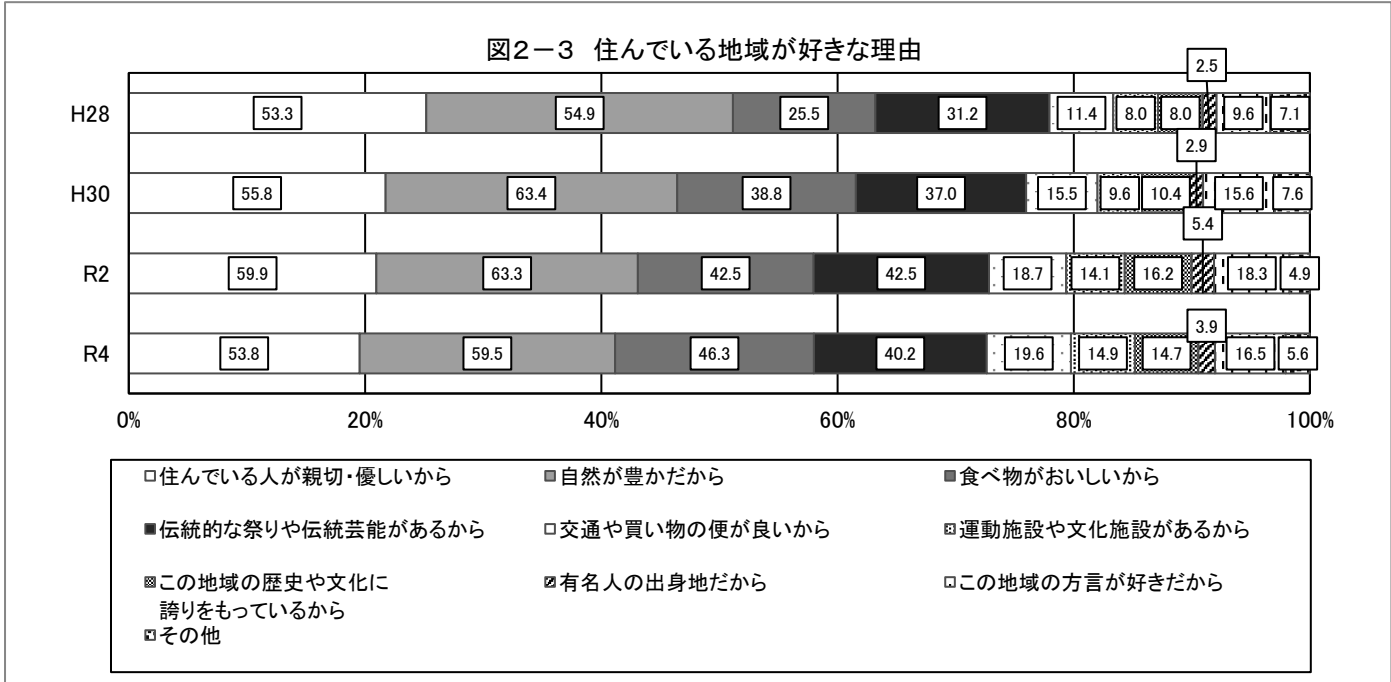
<住んでいる地域が好きな理由> (報告書 P.11、13 問2(2))

住んでいる地域が好きな理由を尋ねたところ、「自然が豊かだから」が59.5%で最も高い。以下、「住んでいる人が親切・優しいから」が53.8%となっている。



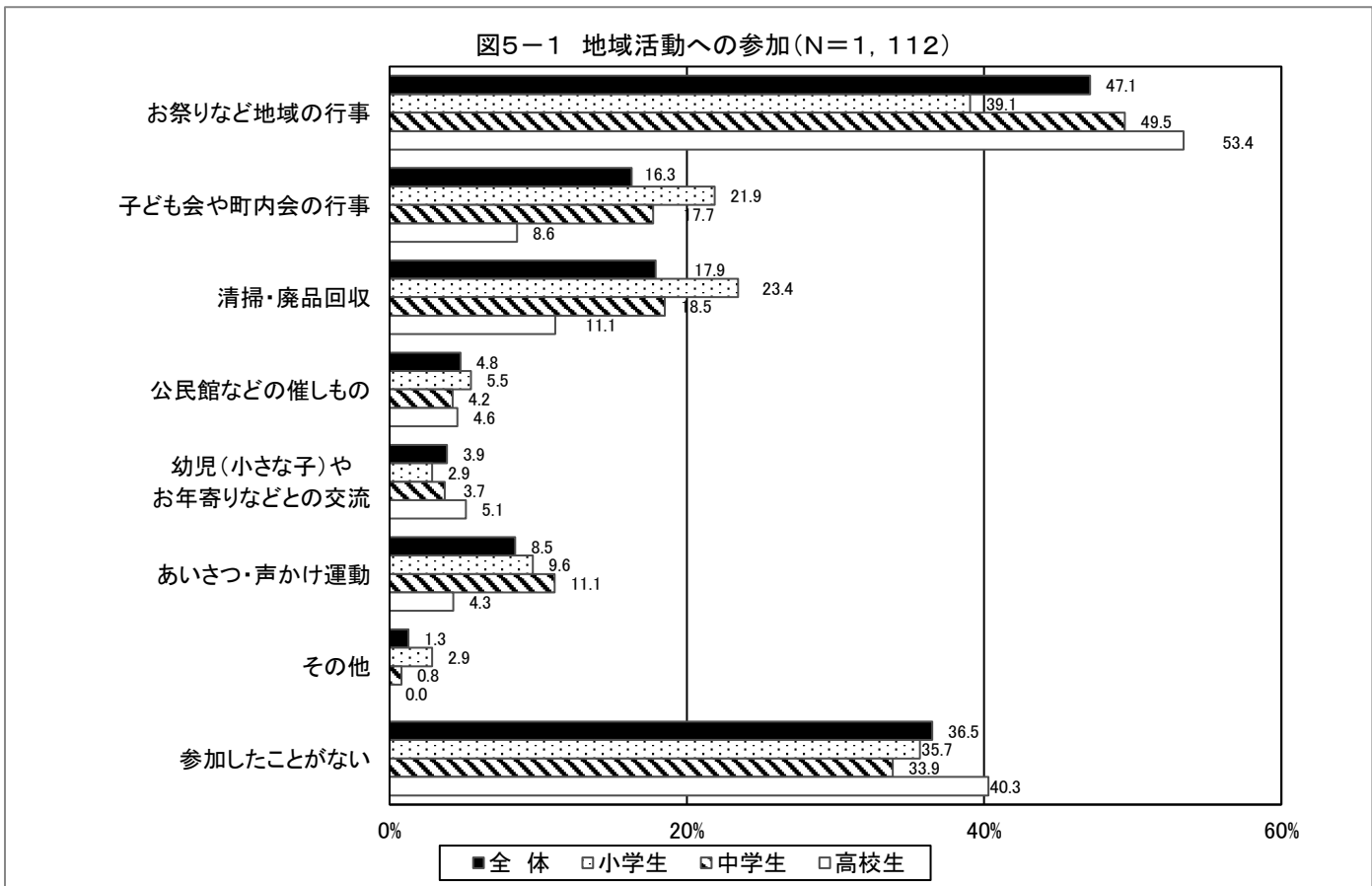
(経年変化)

過去の調査においても、「自然が豊かだから」が、好きな理由のトップとなっている。



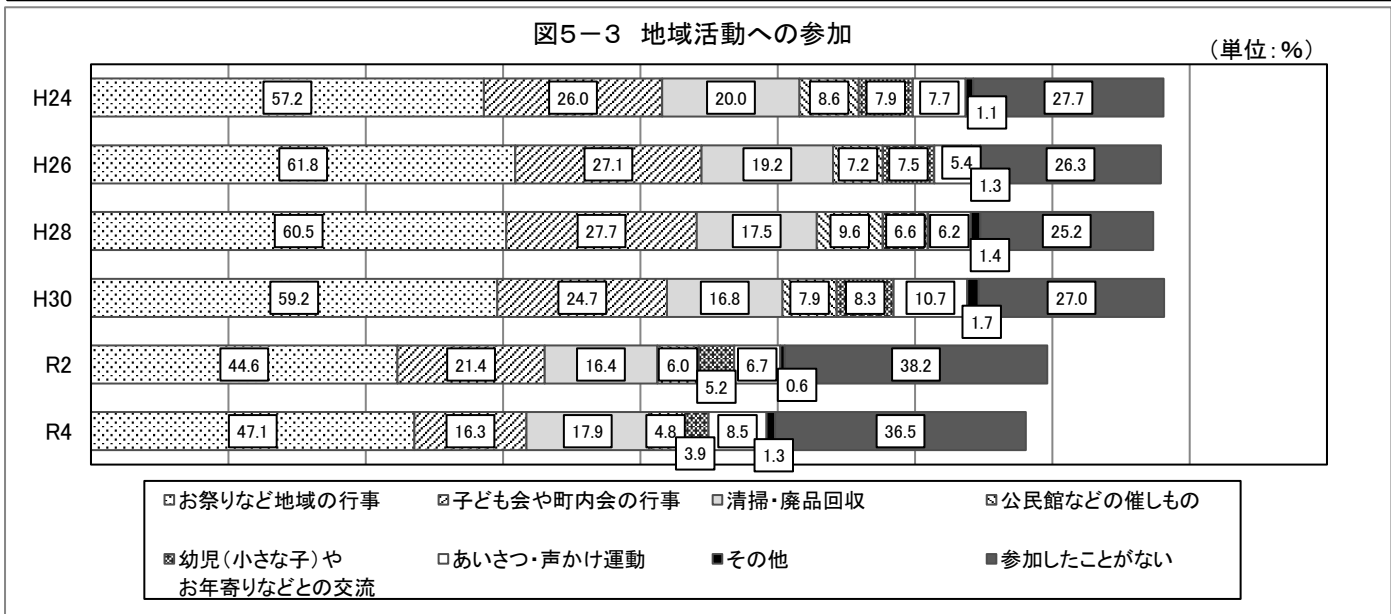
<地域活動への参加> (報告書 P.18、20 問4)

最近1年間で参加した地域活動について尋ねたところ、「お祭りなど地域の行事」が47.1%で最も高く、以下、「参加したことがない」(36.5%)、「清掃・廃品回収」(17.9%)の順となっている。



(経年変化)

「参加したことがない」は、平成30年度まで30%弱で推移していたが、令和2年度以降は40%弱となっている。

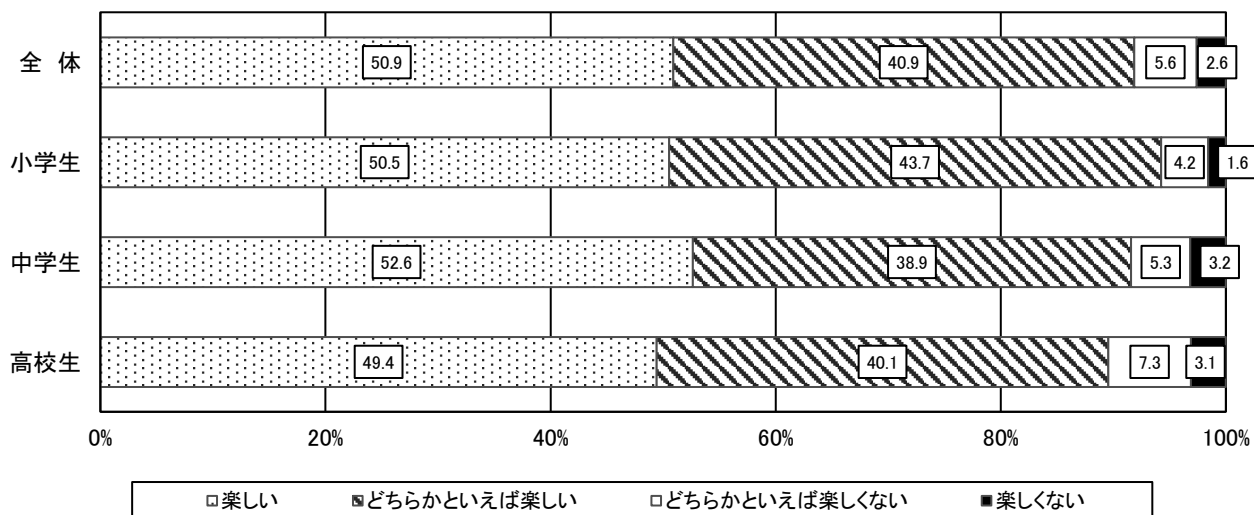


2 学校のこと

<学校生活への満足度> (報告書 P.23~24 問6(1))

学校生活が楽しいかどうか尋ねたところ、「楽しい」が50.9%で最も高い。「楽しい」と「どちらかといえば楽しい」を合わせた『楽しい』は91.8%となっている。

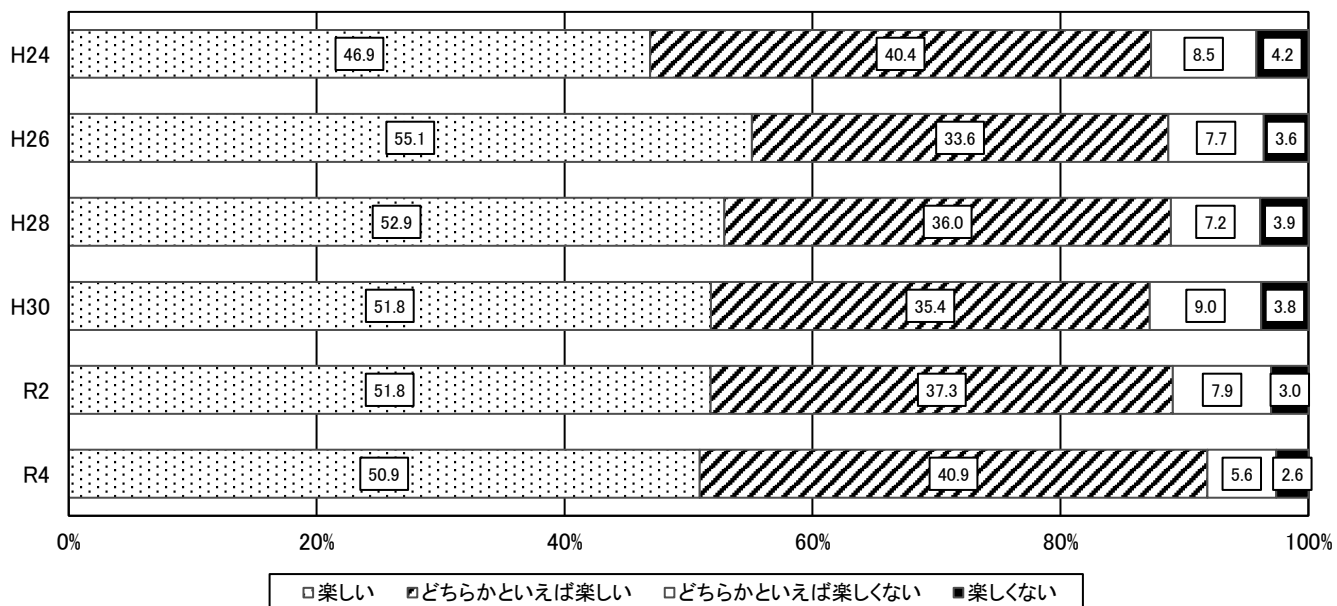
図7-1 学校生活への満足度(N=1,116)



(経年変化)

『楽しい』は、平成24年度からほぼ横ばいであったが、令和4年度は2.7ポイント上昇し、91.8%となっている。

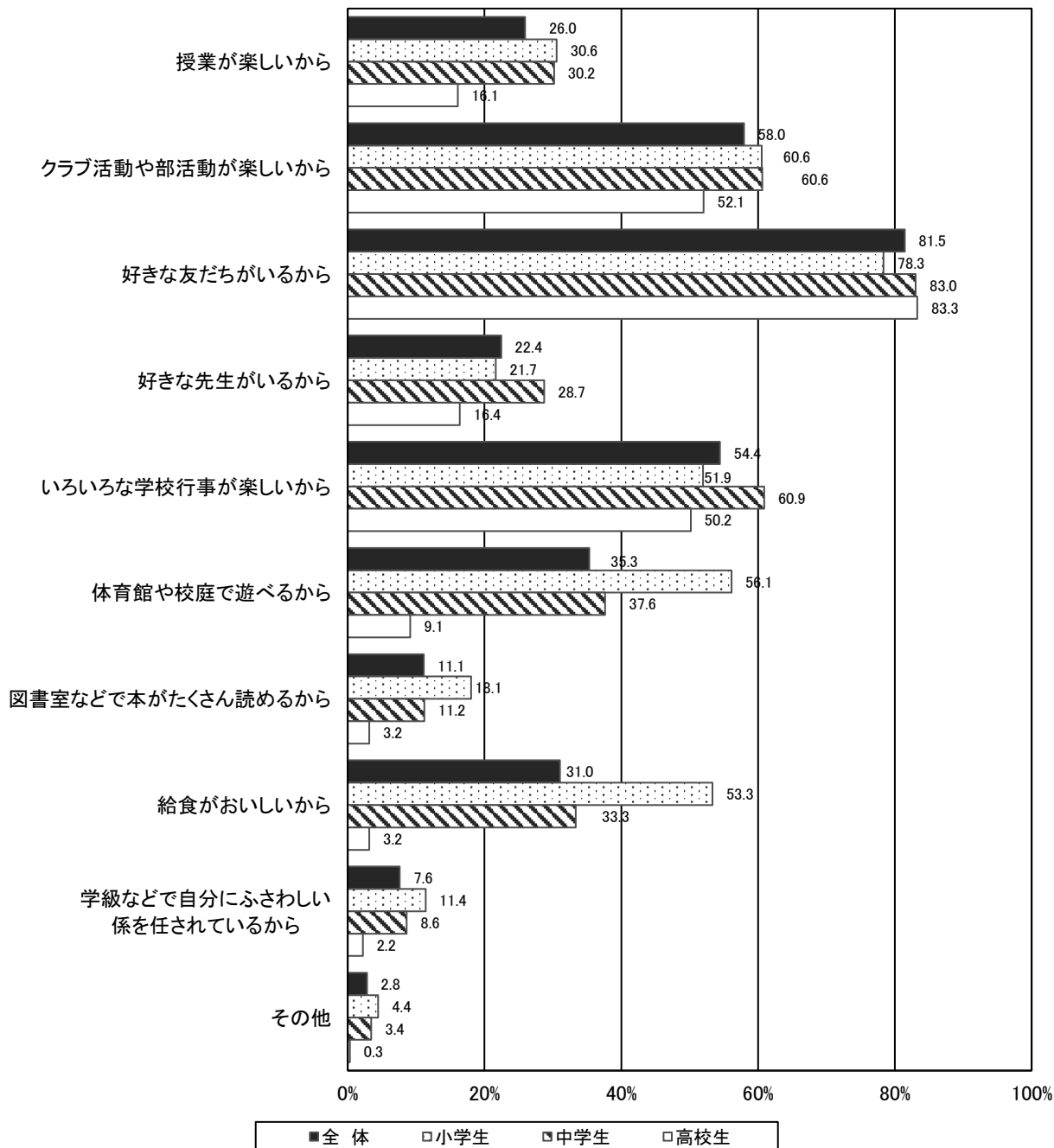
図7-3 学校生活への満足度



<学校生活楽しい理由> (報告書 P.25~26 問6(2))

『楽しい』を選んだ人にその理由を尋ねたところ、全体では「好きな友だちがいるから」が81.5%で最も高く、以下、「クラブ活動や部活動が楽しいから」(58.0%)、「いろいろな学校行事が楽しいから」(54.4%)の順となっている。

図8-1 学校生活楽しい理由(N=1,025)

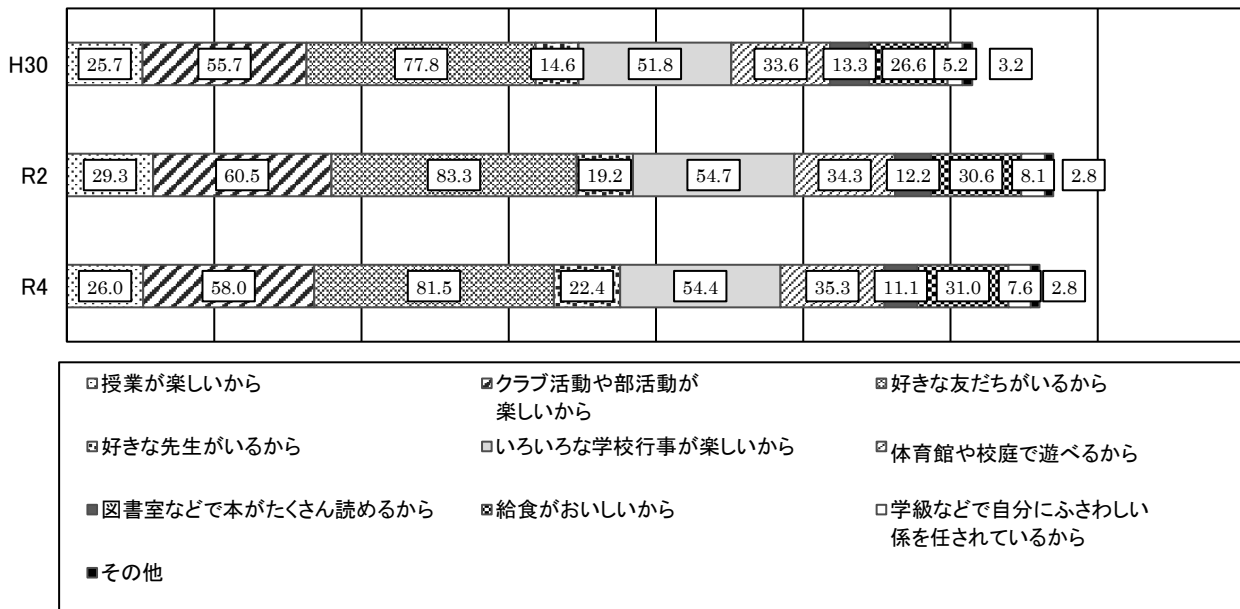


(経年変化)

令和2年度から「好きな先生がいるから」が3.2ポイント増加し、「好きな友だちがいるから」「クラブ活動や部活動が楽しいから」が減少した。

図8-2 学校生活が楽しい理由

(単位: %)

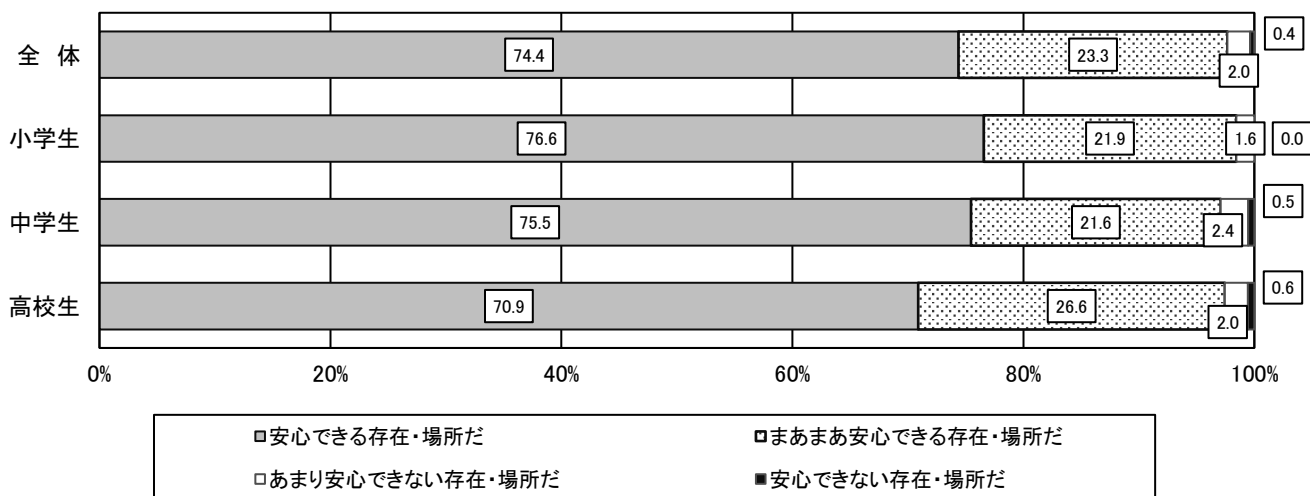


3 家族・家庭のこと

<家族・家庭への評価> (報告書 P.27~28 問7(1))

家族・家庭が安心できる存在・場所かどうか尋ねたところ、「安心できる存在・場所だ」が74.4%で最も高い。「安心できる存在・場所だ」と「まあまあ安心できる存在・場所だ」を合わせた『安心できる存在・場所だ』は、97.7%となっている。

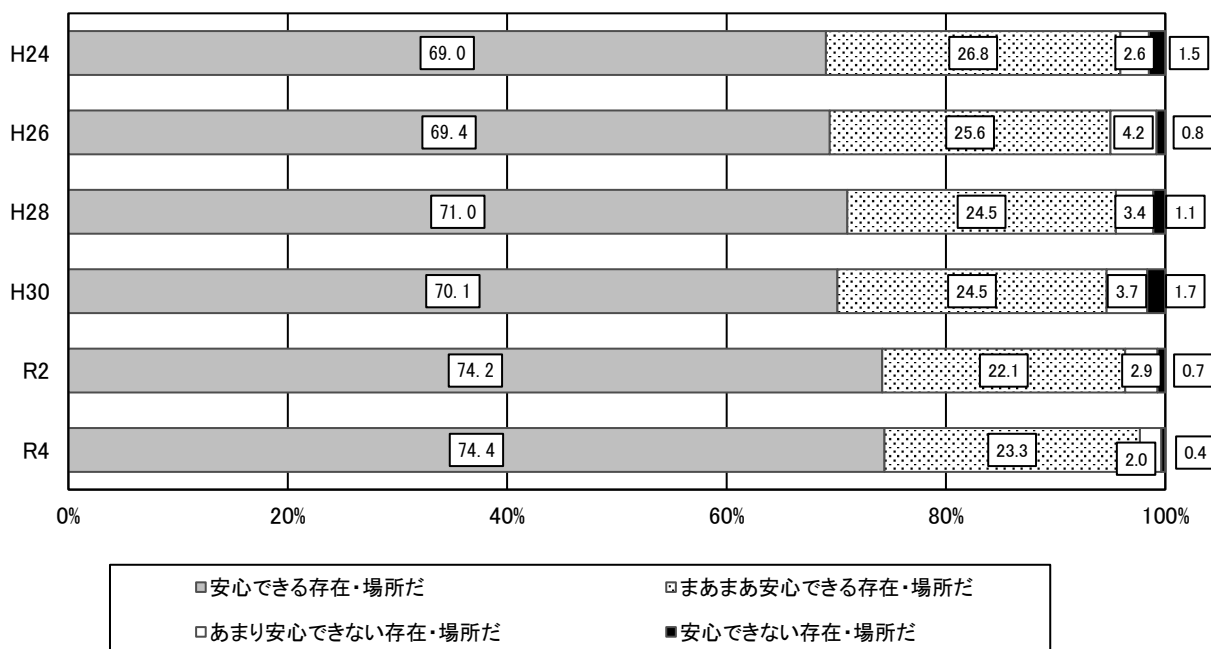
図9-1 家族・家庭への評価(N=1,117)



(経年変化)

『安心できる存在・場所だ』は、やや増加している。

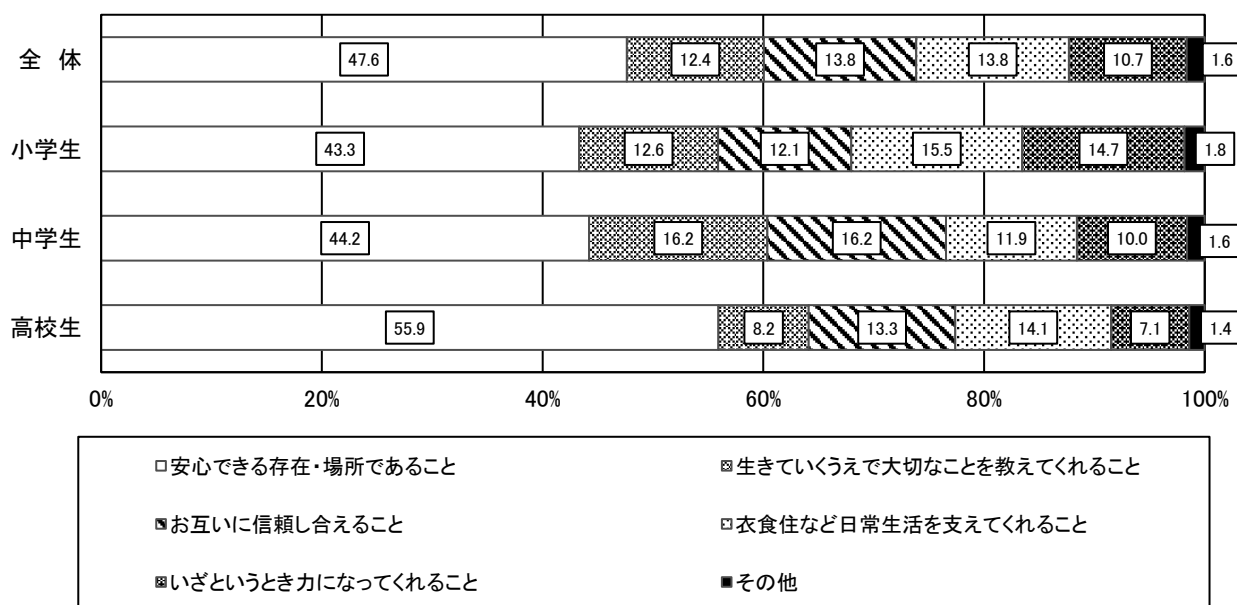
図9-3 家族・家庭への評価



<家族や家庭に大切なもの> (報告書 P.37 問7(7))

家族や家庭に大切なものについて尋ねたところ、「安心できる存在・場所であること」が47.6%で最も高く、以下、「お互いに信頼し合えること」「衣食住など日常生活を支えてくれること」(各13.8%)などとなっている。

図15-1 家族や家庭に大切なもの(N=1,106)

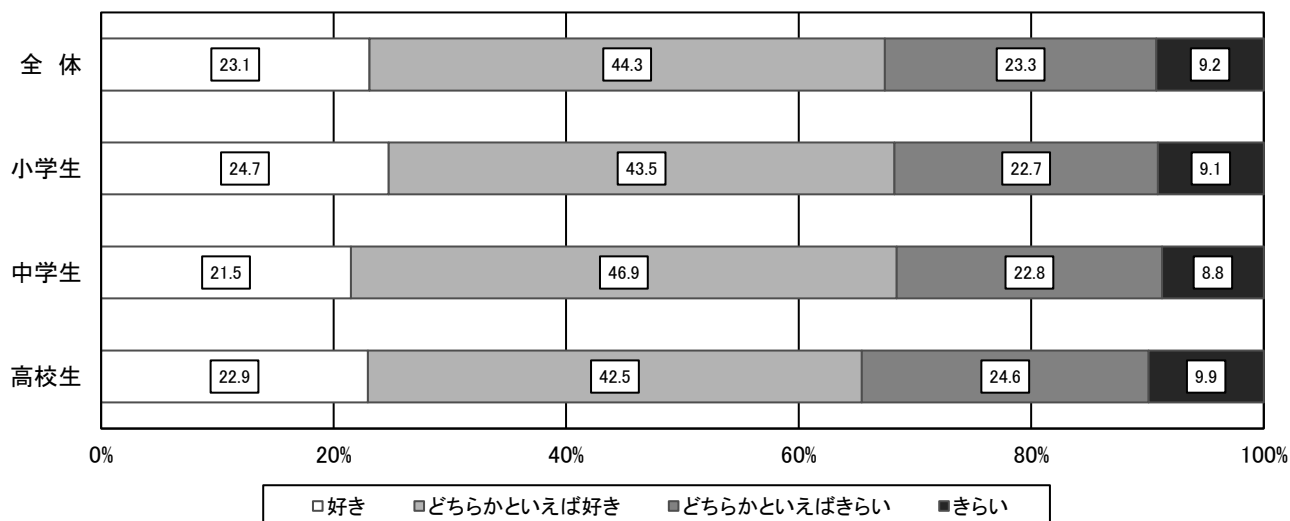


4 自分のこと

<自己への評価> (報告書 P.39~40 問8(1))

自分のことが好きかどうか尋ねたところ、「どちらかといえば好き」が44.3%で最も高い。「好き」と「どちらかといえば好き」を合わせた『好き』は、67.4%となっている。

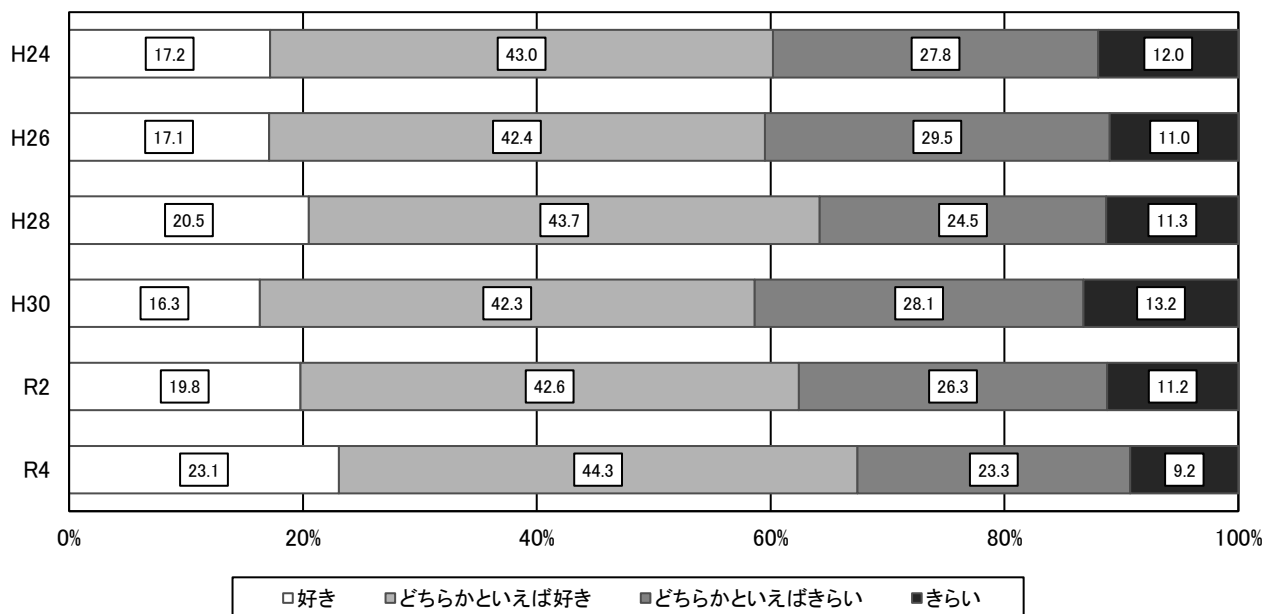
図16-1 自己への評価(N=1,114)



(経年変化)

『好き』は、平成24年度以降、60%前後で推移しているが、令和4年度は、令和2年度から5ポイント増加して67.4%となっている。

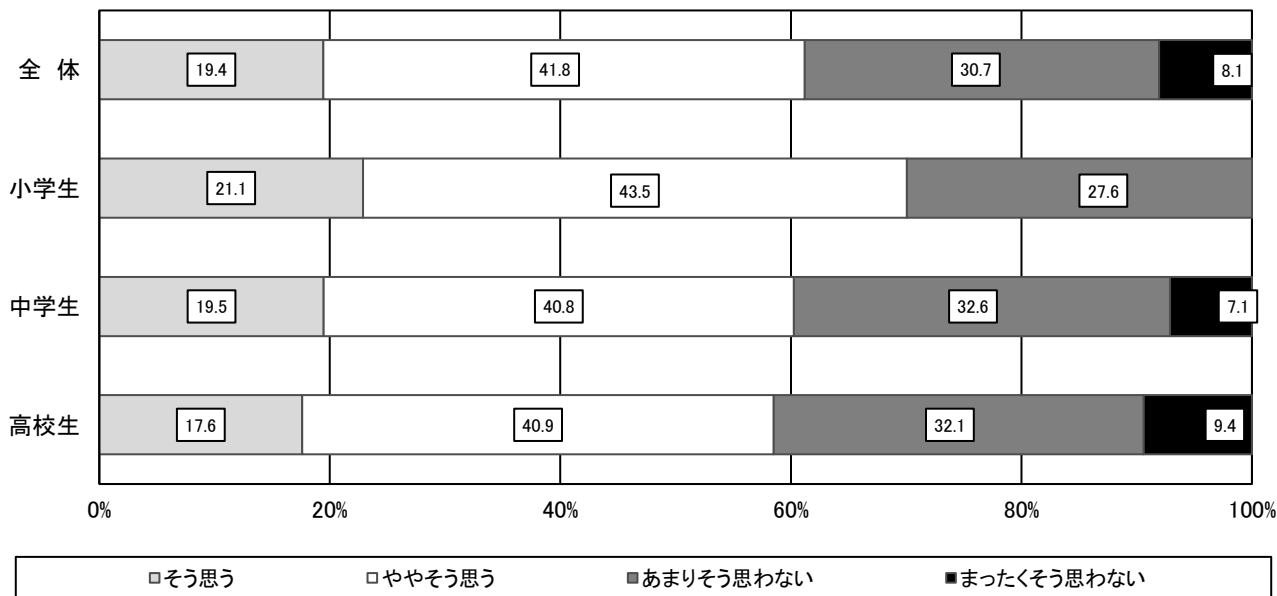
図16-3 自己への評価



<家族や社会への関わりについて> (報告書 P.52 問12)

世の中の役に立っていると感じるかについて尋ねたところ、「ややそう思う」が41.8%で最も高い。「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた『そう思う』は、60.2%となっている。

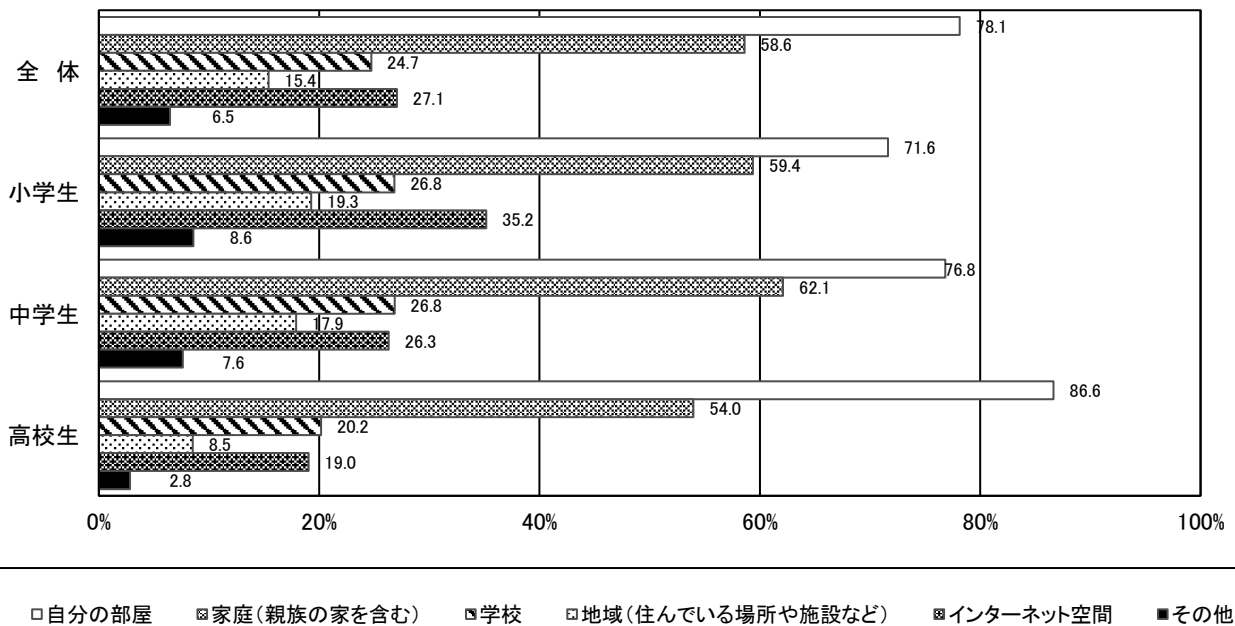
図23-1 自分は社会の役に立っているか(N=1,116)



<居心地のいい場所> (報告書 P.54 問14)

居心地のいい場所について尋ねたところ、「自分の部屋」が78.1%で最も高く、以下、「家庭(親族の家を含む)」(58.6%)、「インターネット空間」(27.1%)の順となっている。

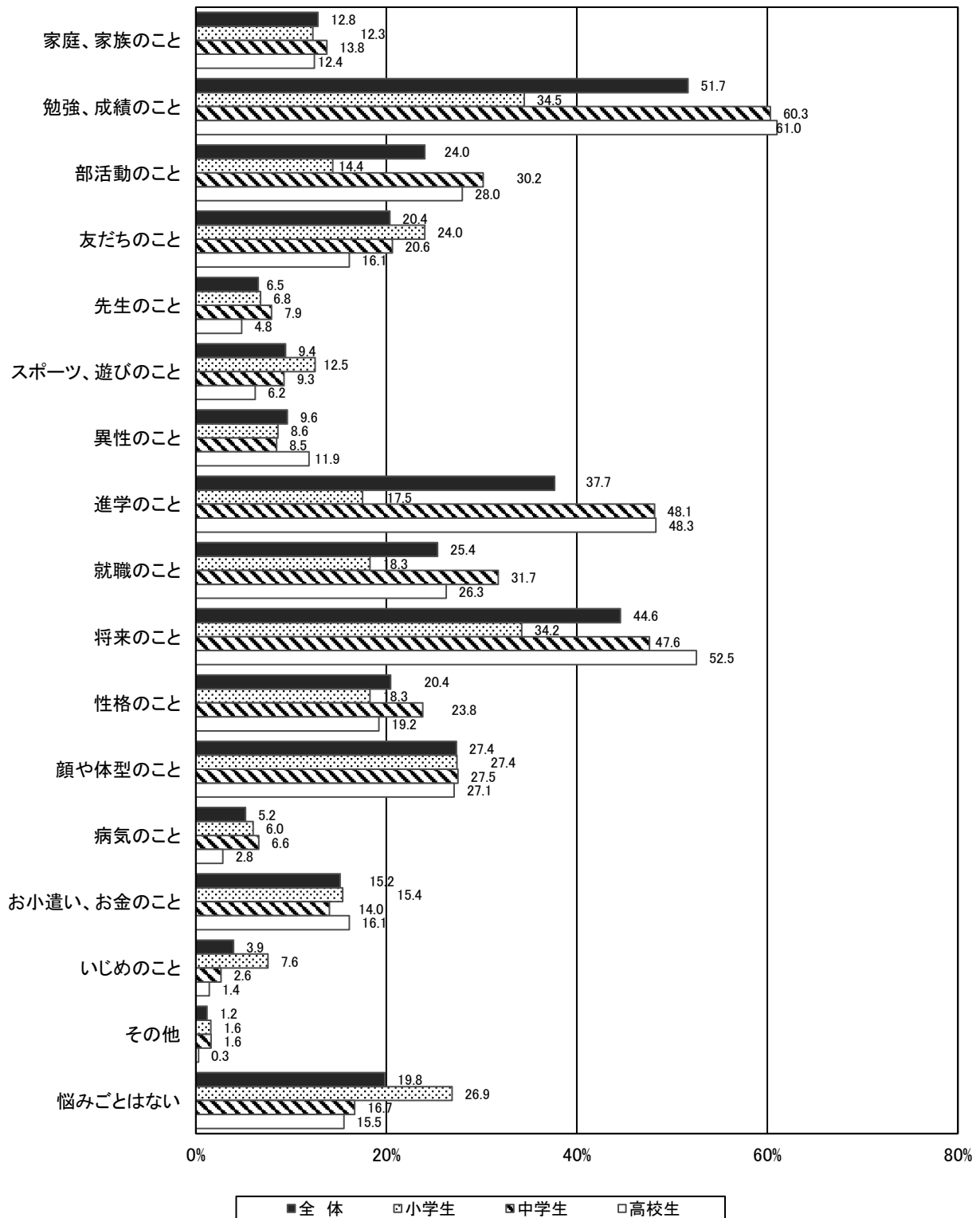
図25-1 居心地のいい場所(N=1,116)



<悩みごと> (報告書 P.56 問15)

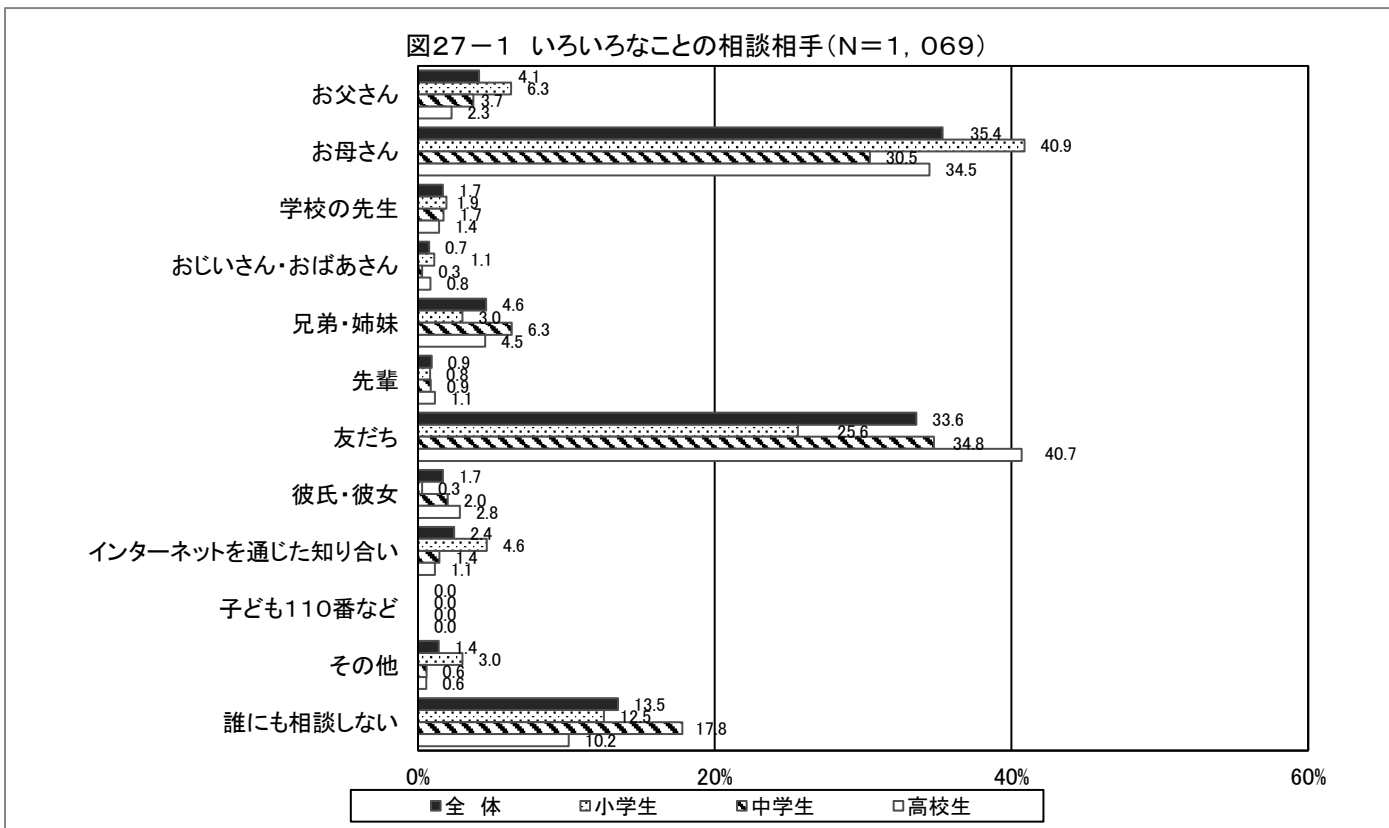
悩みごとについて尋ねたところ、「勉強、成績のこと」が51.7%で最も高く、以下、「将来のこと」(44.6%)、「進学のこと」(37.7%)の順となっている。

図26-1 悩みごとについて(N=1,115)



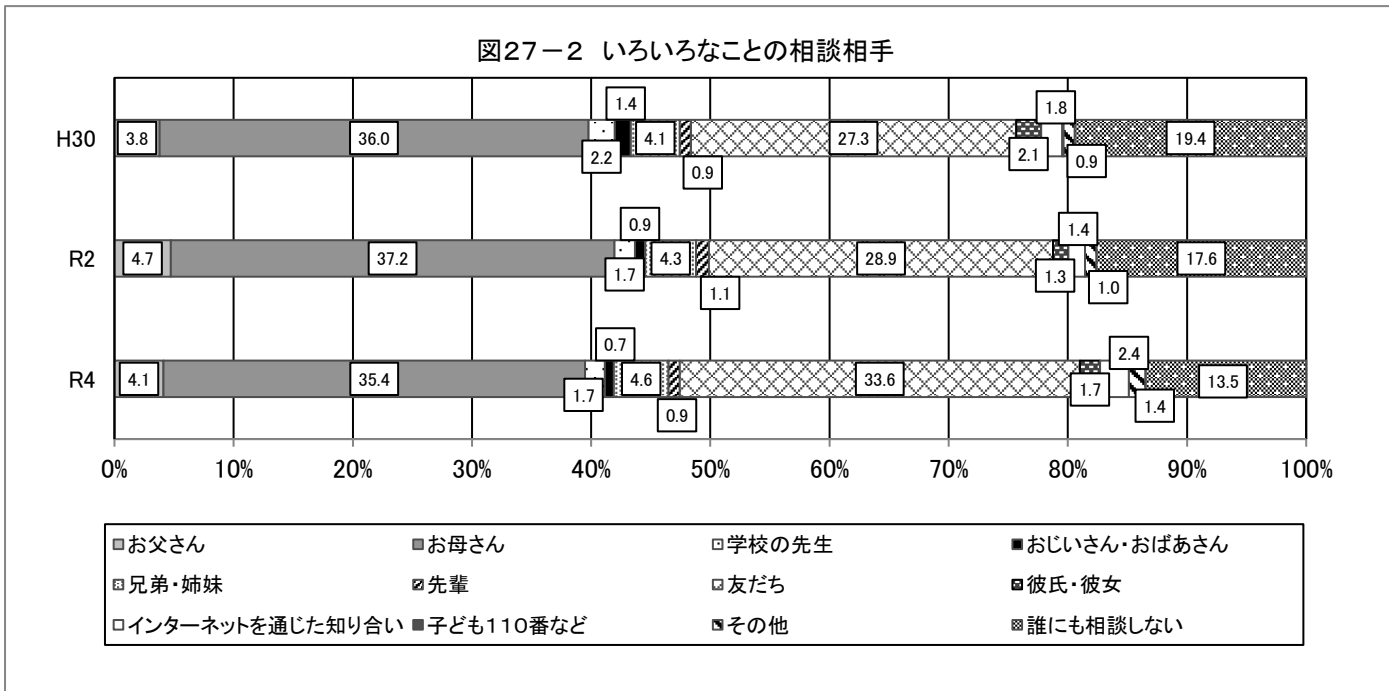
<悩みごとの相談相手> (報告書 P.58~59 問16(1))

いろいろなことを相談する相手は誰かについて尋ねたところ、「お母さん」が35.4%で最も高く、以下、「友だち」(33.6%)、「誰にも相談しない」(13.5%)の順となっている。



(経年変化)

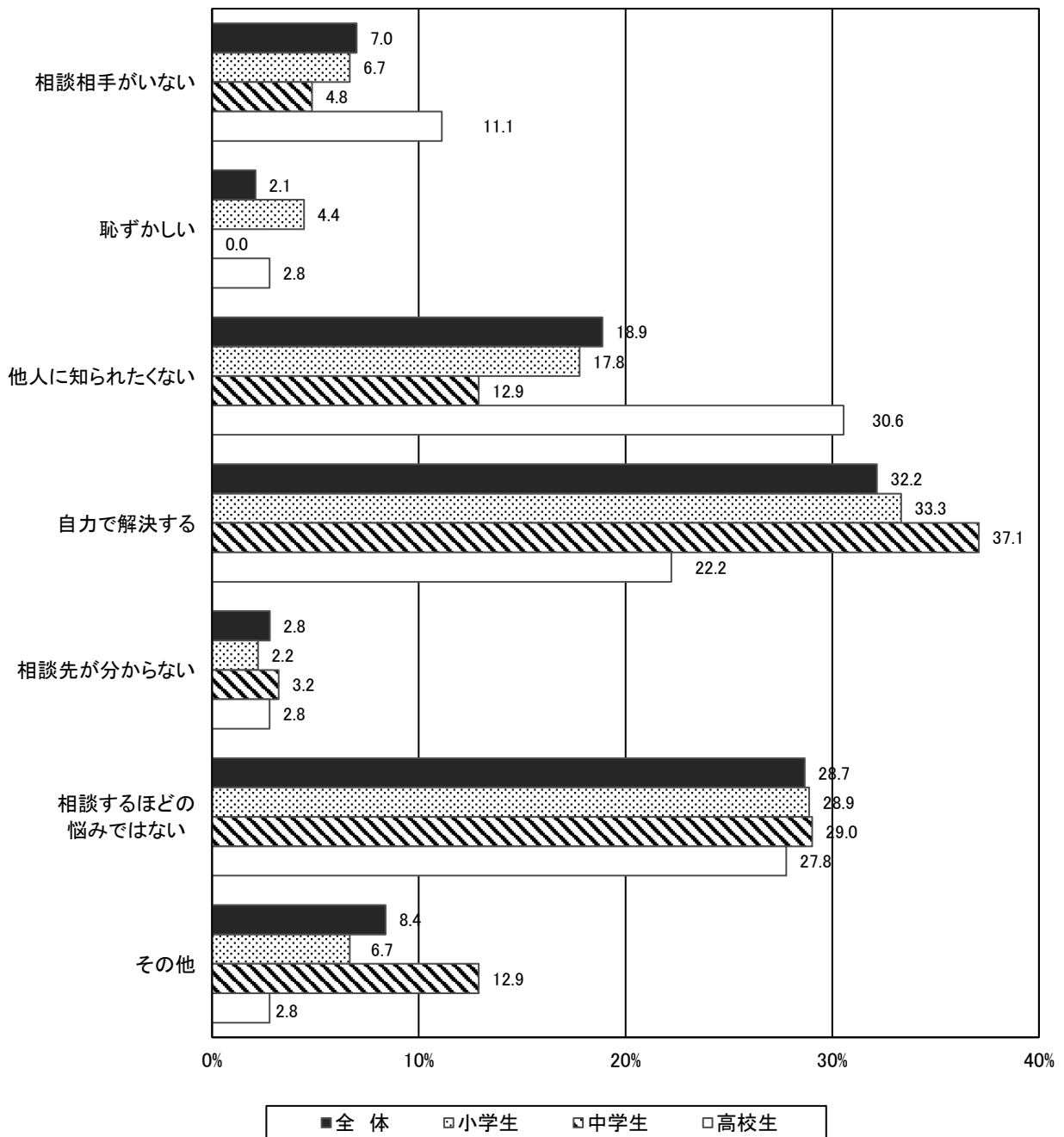
令和2年度と比較すると、「誰にも相談しない」が4.1ポイント減少し、「友だち」が4.7ポイント増えている。



<相談しない理由> (報告書 P.60 問16(2))

誰にも相談しない理由について尋ねたところ、「自力で解決する」が32.2%で最も高く、以下「相談するほどの悩みではない」(28.7%)、「他人に知られたくない」(18.9%)の順となっている。

図28-1 誰にも相談しない理由(N=143)

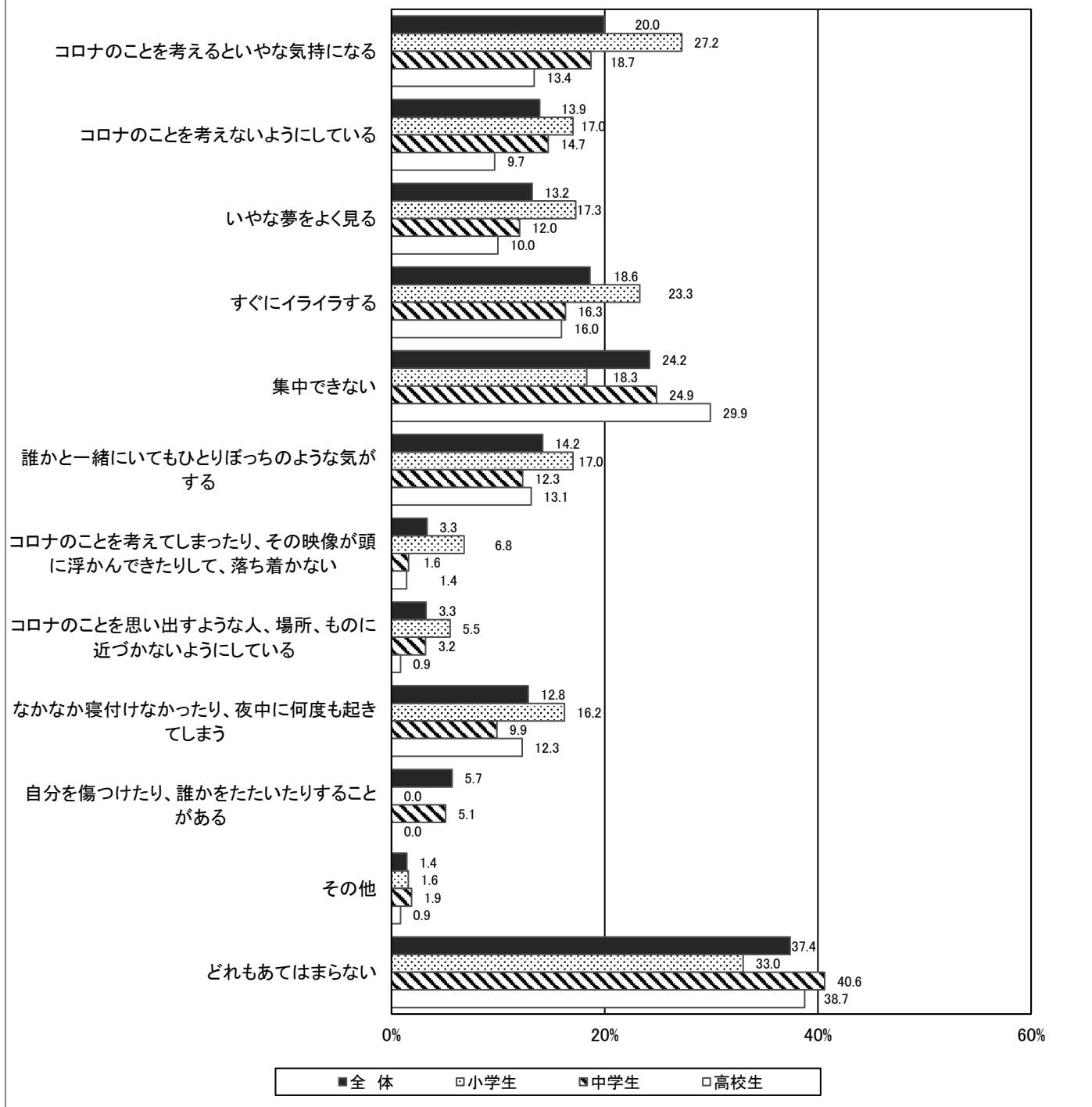


5 新型コロナウイルス感染症流行下の心の状態

<コロナ下の心の状態> (報告書 P.62 問17)

最近の心の状態について尋ねたところ、「どれもあてはまらない」が37.4%で最も高く、以下、「集中できない」(24.2%)、「コロナのことを考えるといやな気持ちになる」(20.0%)の順となっている。

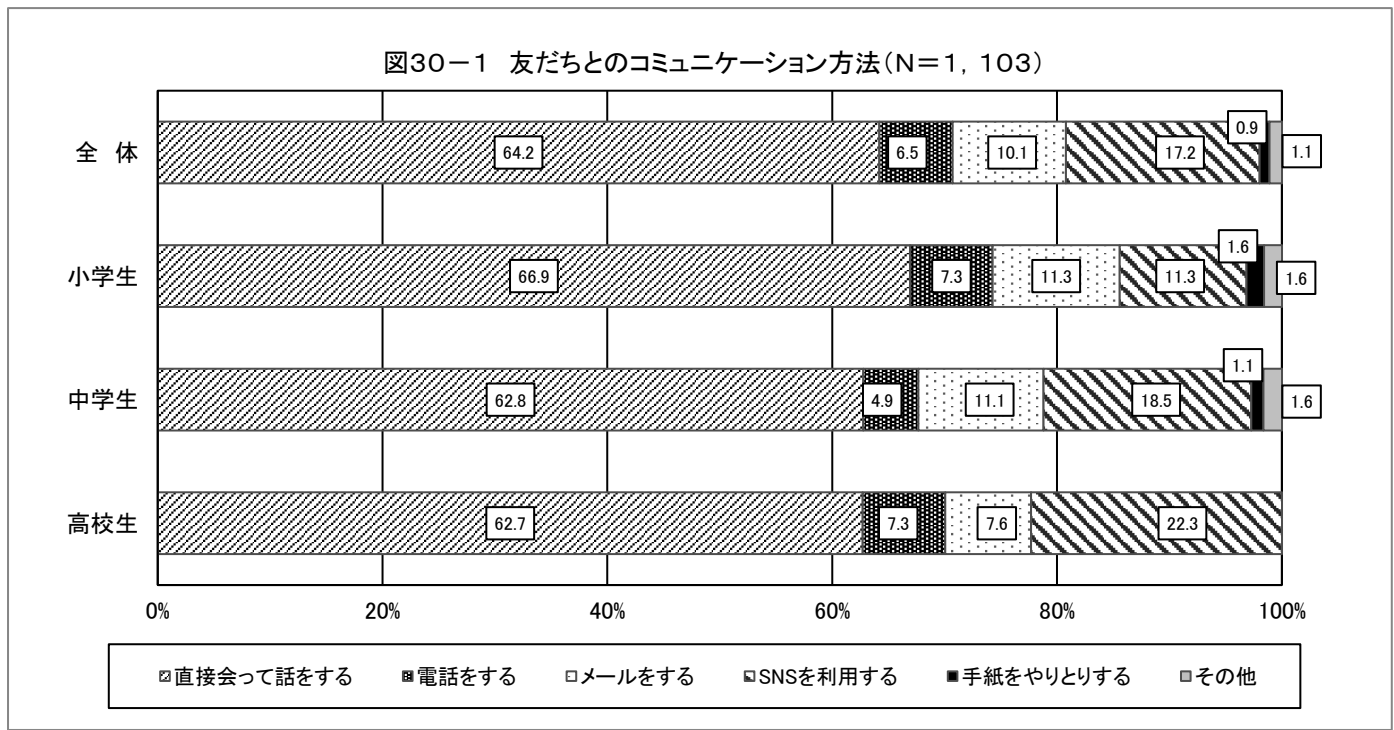
図29-1 最近1か月の心の状態 (N=1,107)



6 メディア・コミュニケーションのこと

<友だちとのコミュニケーション方法> (報告書 P.63 問18)

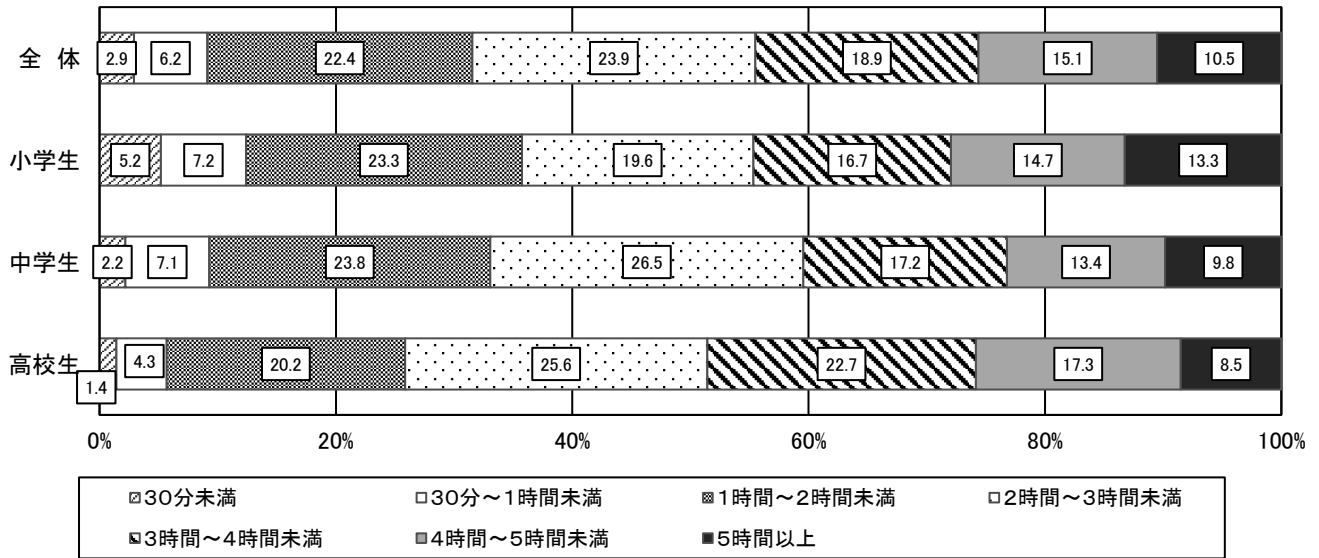
友だちとのコミュニケーション方法について尋ねたところ、「直接会って話をする」が64.2%で最も高く、以下、「SNSを利用する」(17.2%)、「メールをする」(10.1%)の順となっている。



<インターネットの利用時間> (報告書 P.71～72 問19(4))

インターネットの利用時間を尋ねたところ、「2時間～3時間未満」が23.9%で最も高く、以下「1時間～2時間未満」(22.4%)、「3時間～4時間未満」(18.9%)の順となっている。

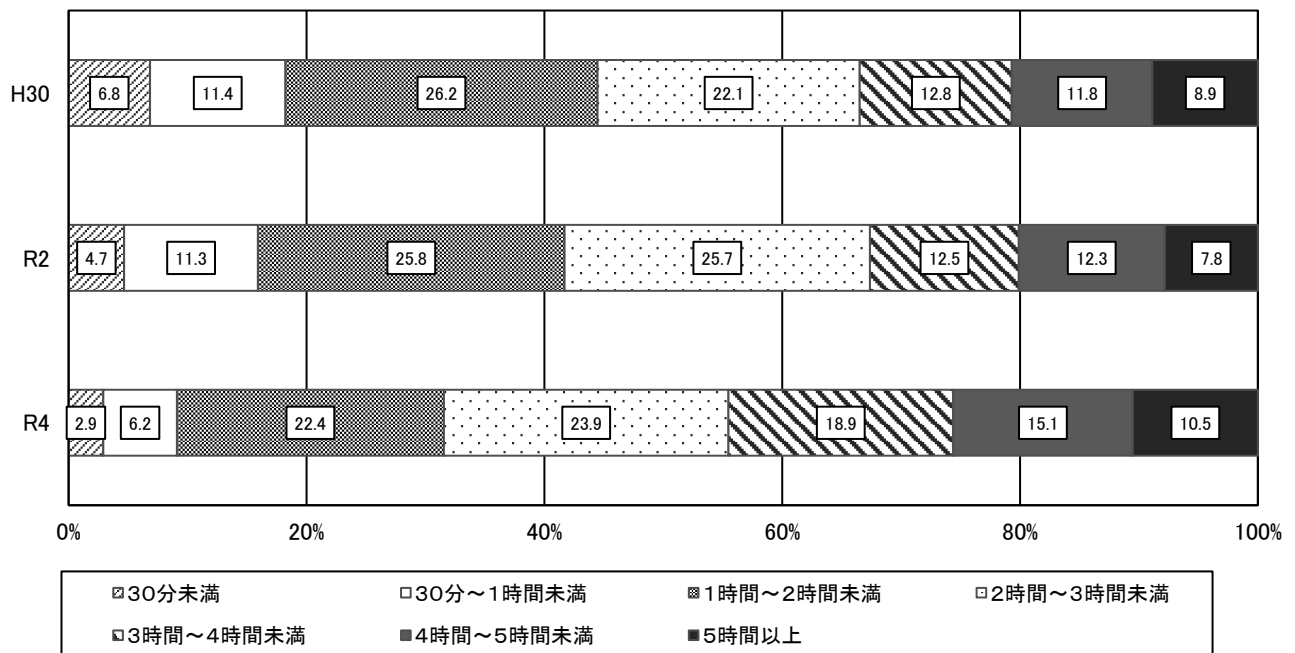
図34-1 インターネットの利用時間(N=1,065)



(経年変化)

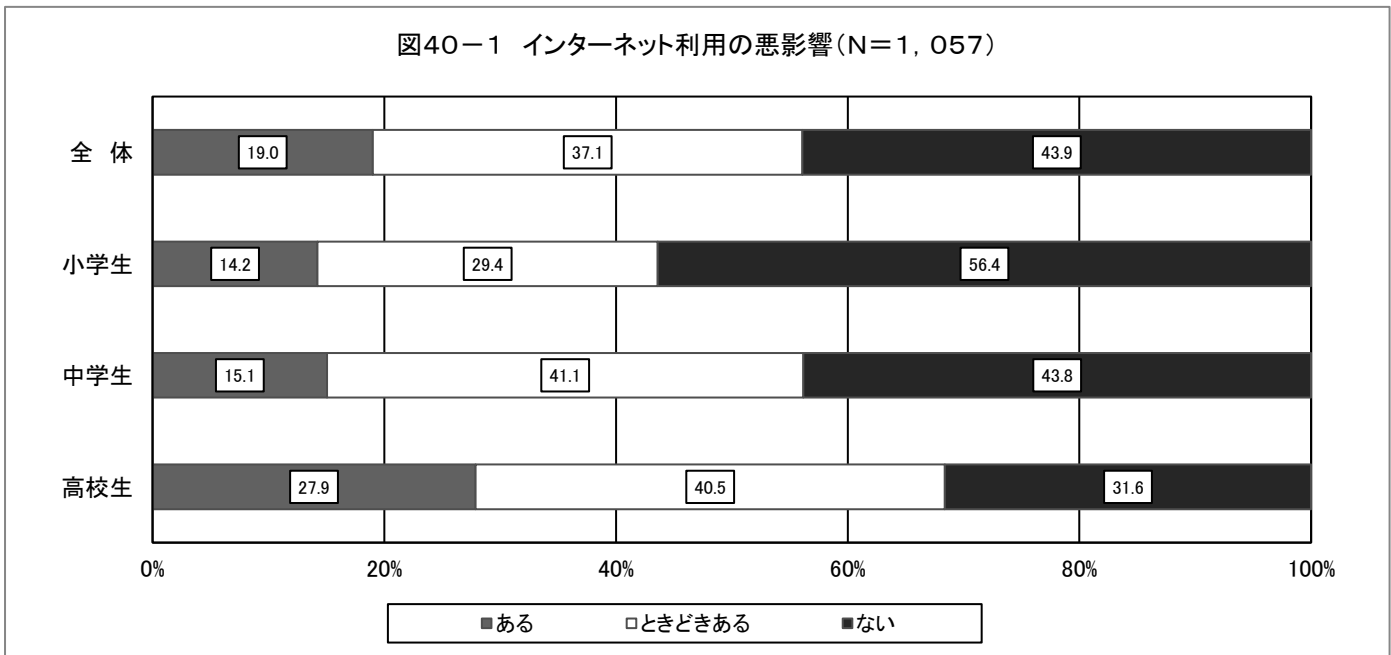
利用時間は増加傾向にあり、令和2年度と比較すると、3時間以上利用している人が、32.6%から44.5%へ11.9ポイント増加している。

図34-3 インターネットの利用時間



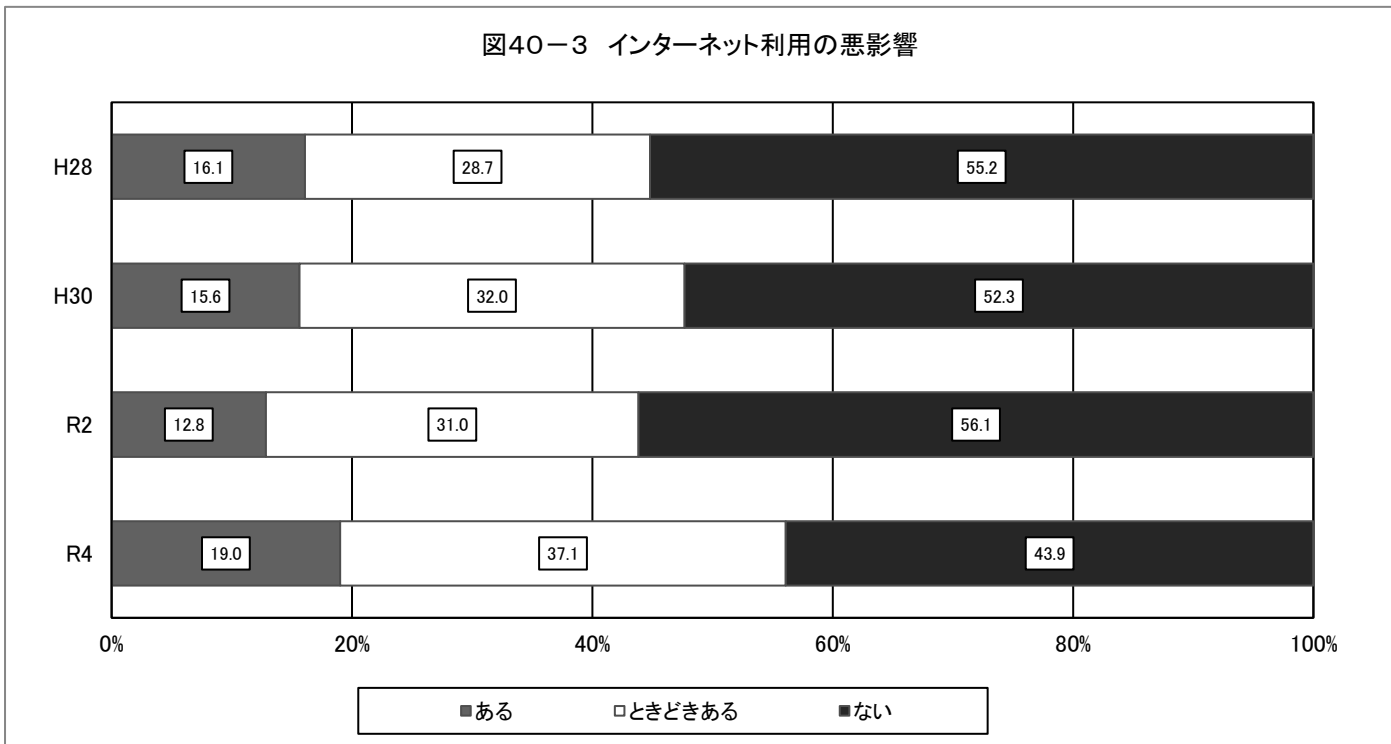
<インターネット利用の悪影響> (報告書 P.79~80 問19(10))

インターネットにのめりこんで、勉強に集中できなかつたり、睡眠不足になったりしたことがあるかどうか尋ねたところ、「ない」が43.9%と最も高い一方、「ある」「ときどきある」を合わせると56.1%と半数を超えている。



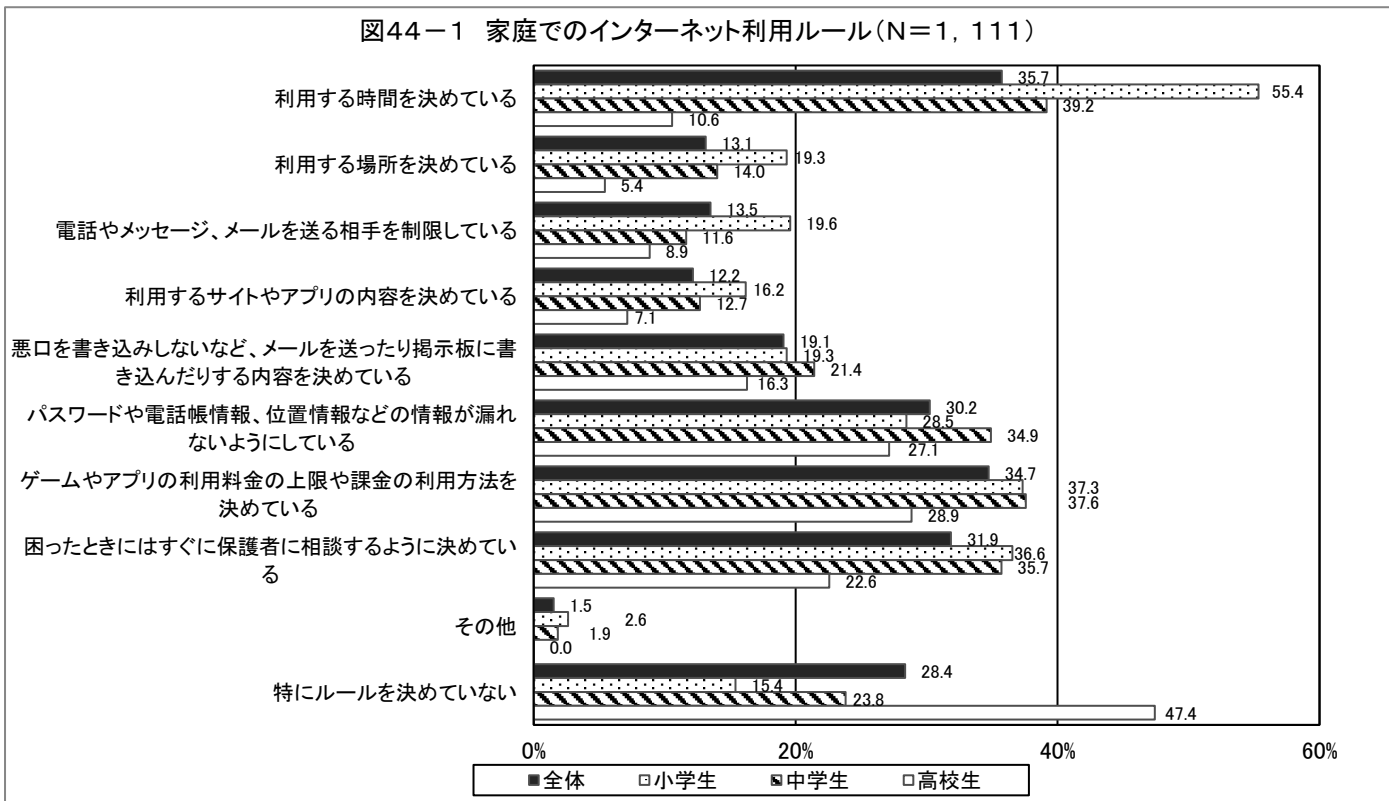
(経年変化)

「ある」「ときどきある」とも平成28年度から令和2年度までは、半数に満たなかったが、令和2年度から大幅に増加しており、合わせて43.8%から56.1%へ12.3ポイントの増となっている。



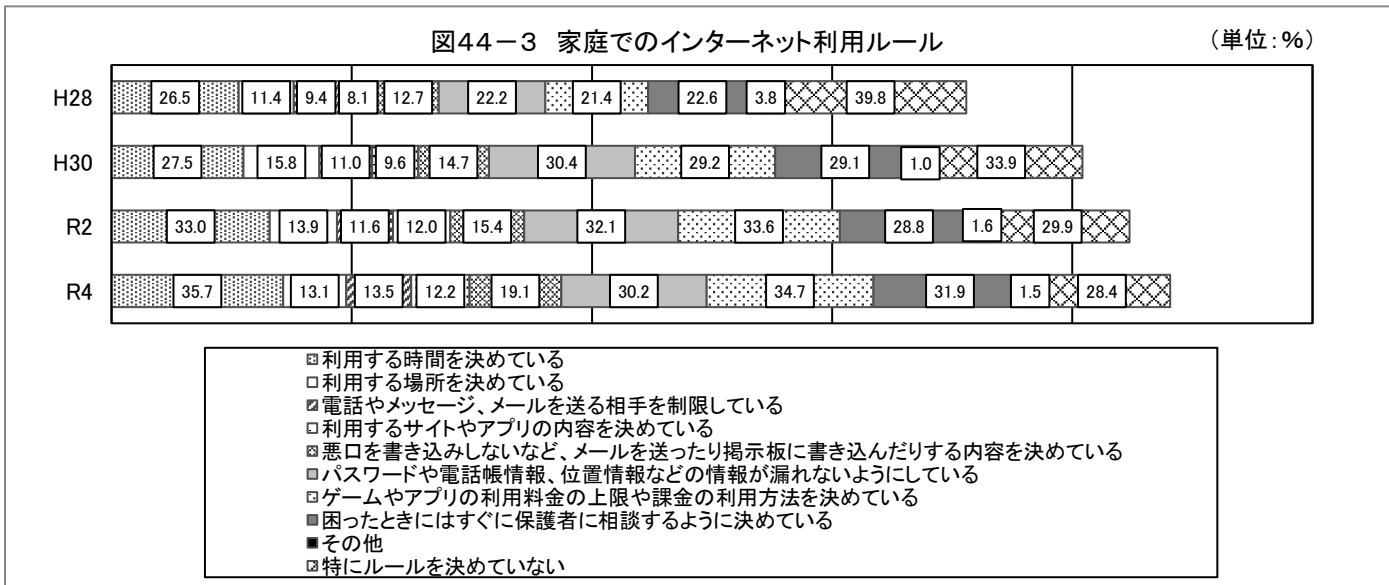
<家庭でのインターネット利用ルール> (報告書 P.85、87 問19(14))

家庭でのインターネット利用のルールを尋ねたところ、「利用する時間を決めている」が35.7%で最も高く、以下、「ゲームやアプリの利用料金の上限や課金の利用方法を決めている」(34.7%)、「困ったときはすぐに保護者に相談するように決めている」(31.9%)の順となっている。



(経年変化)

「特にルールを決めていない」が年々減少している一方、「利用する時間を決めている」「ゲームやアプリの利用料金の上限や課金の利用方法を決めている」「困ったときはすぐに保護者に相談するように決めている」など、何らかのルールを決めている家庭が年々増加している。

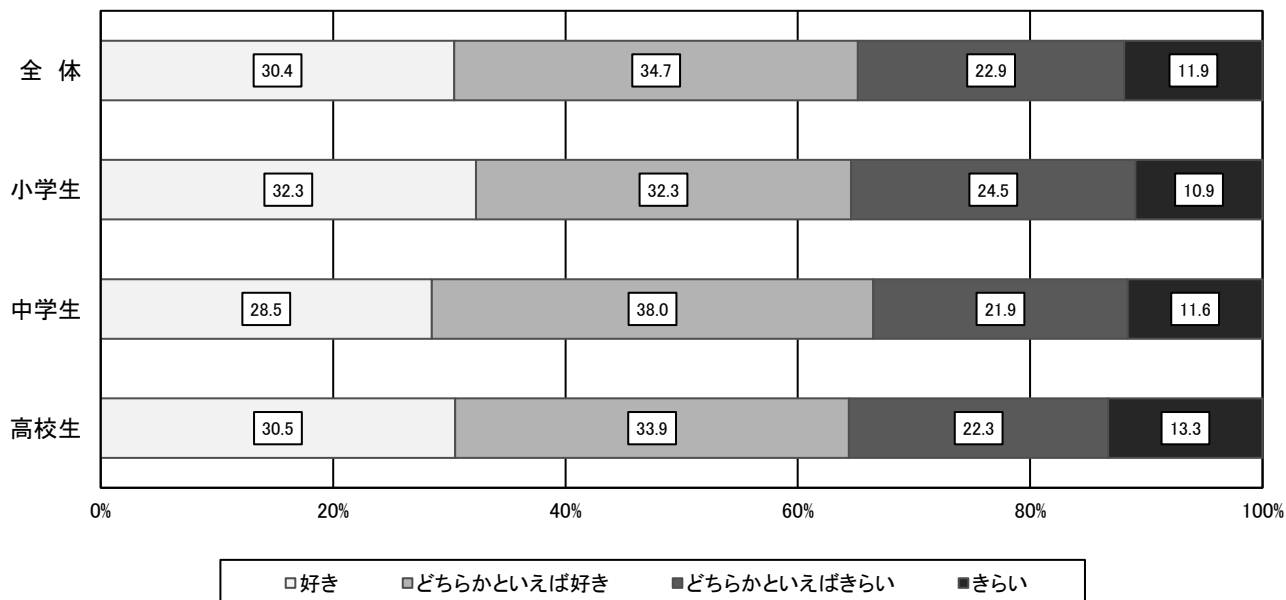


7 読書のこと

<読書への評価> (報告書 P.91~92 問20(1))

読書が好きか尋ねたところ、「どちらかといえば好き」が34.7%と最も高い。「好き」「どちらかといえば好き」を合わせた『好き』は、65.1%となっている。

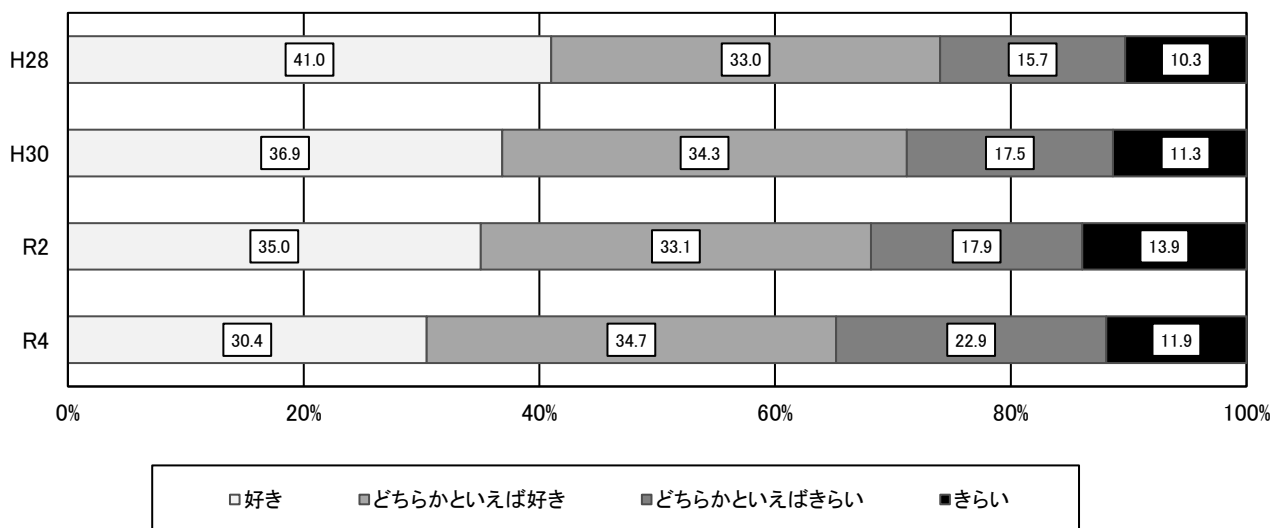
図46-1 読書への評価 (N=1,117)



(経年変化)

『好き』については減少傾向にあり、平成28年度の74.0%から令和4年度の65.1%と8.9ポイントの減となっている。

図46-3 読書への評価

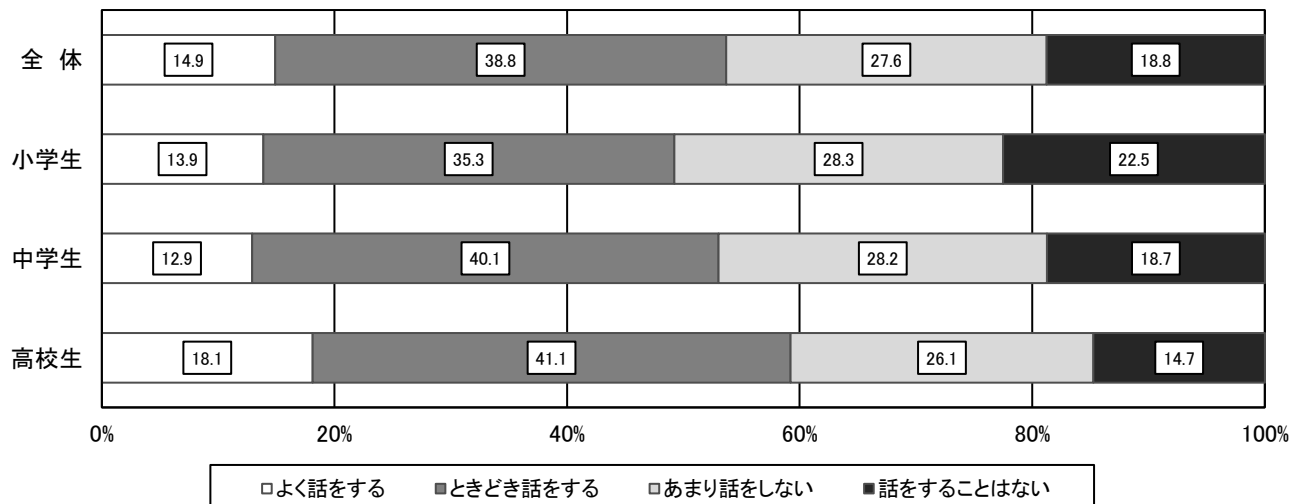


8 世の中のこと

<世の中の出来事についての会話> (報告書 P.96 問21)

世の中の出来事について家族や友だちなどと話をすることはあるか尋ねたところ、「ときどき話をする」が38.8%で最も高い。「よく話をする」と「ときどき話をする」を合わせた『話をする』は53.7%となっている。

図49-1 世の中の出来事についての会話 (N=1,114)

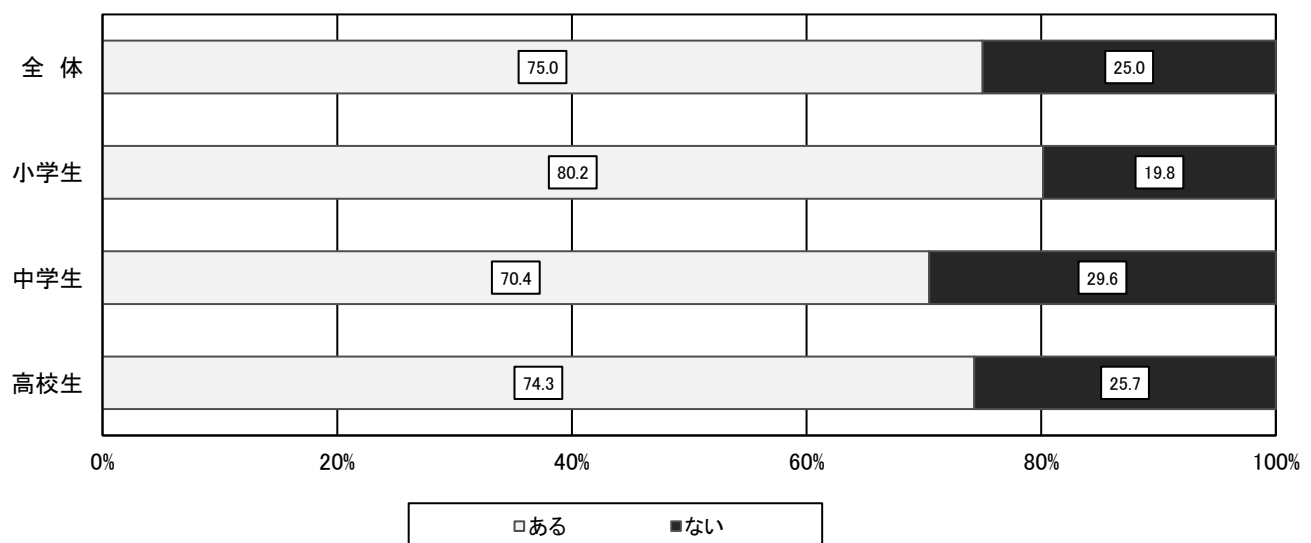


9 就労に関する意識

<将来の就労意識> (報告書 P.98 問22)

将来したい仕事やつきたい職業があるかどうかを尋ねたところ、「ある」が75.0%となっており、「ない」(25.0%)よりも50.0ポイント高い。

図50-1 将来の就労意識 (N=1,116)



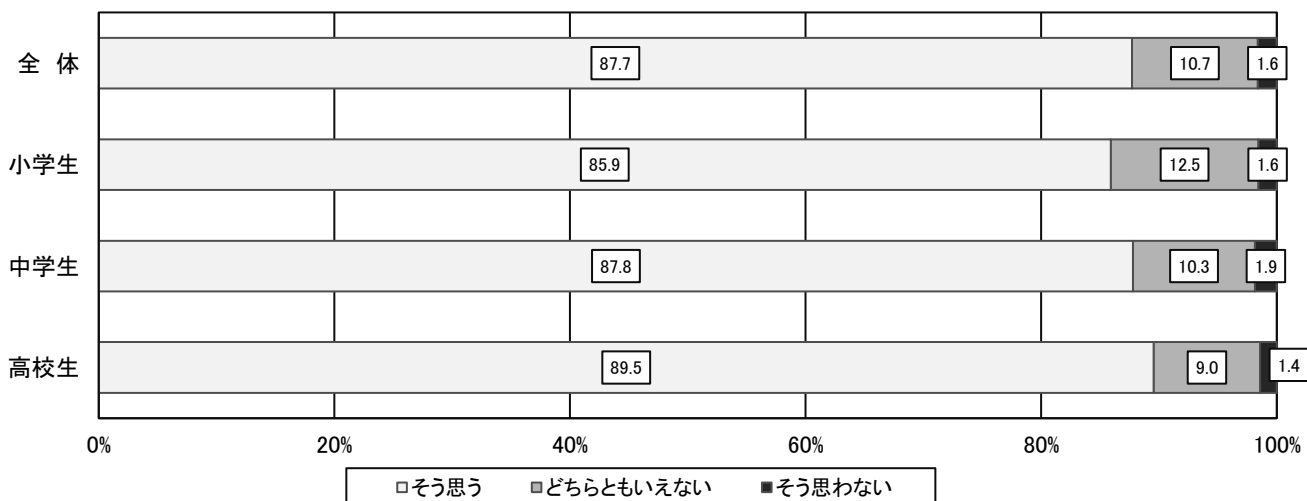
10 社会の価値観の変化に対する意識

<社会の価値観の変化に対する意識(男性でも女性でも、家事や育児や介護をするべきだと思う)>

(報告書 P.104~105 問23(3))

男の人も女の人と同じように、家事や育児や介護をするべきかどうか尋ねたところ、「そう思う」が87.7%で最も高い。

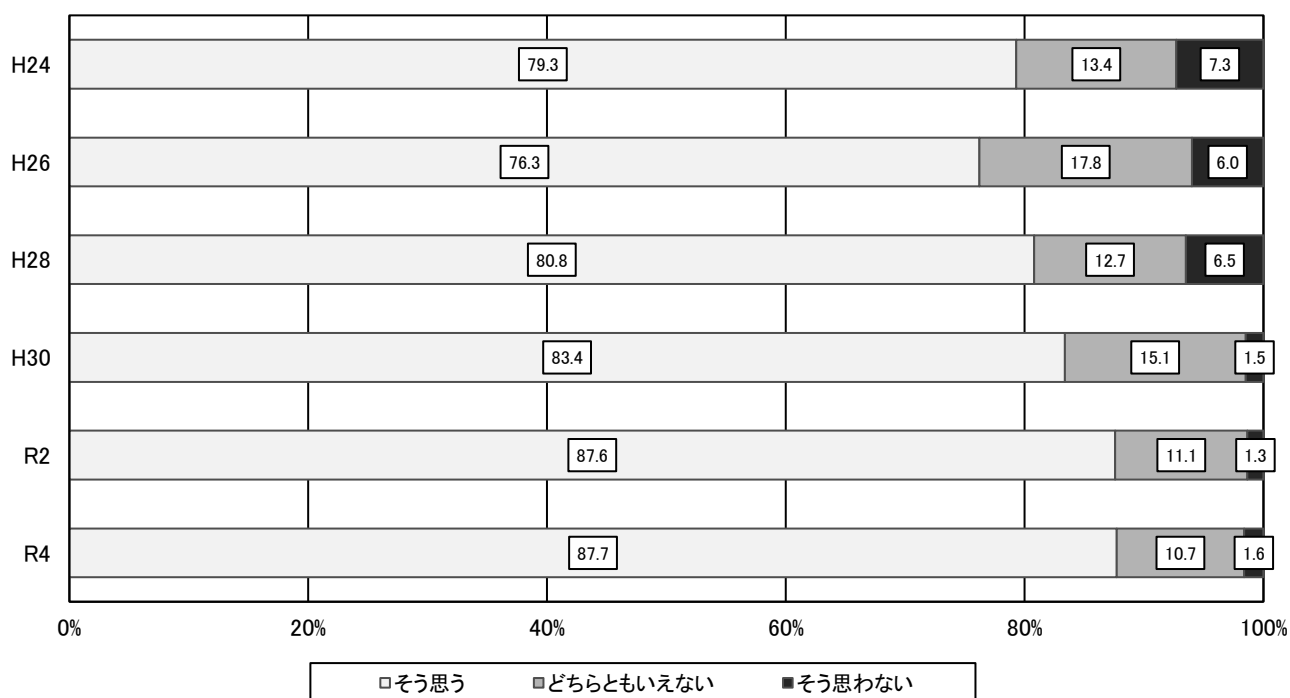
図53-1 男性でも女性でも、家事や育児や介護をするべき(N=1,114)



(経年変化)

「そう思う」は、増加傾向にある。

図53-3 男性でも女性でも、家事や育児や介護をするべき

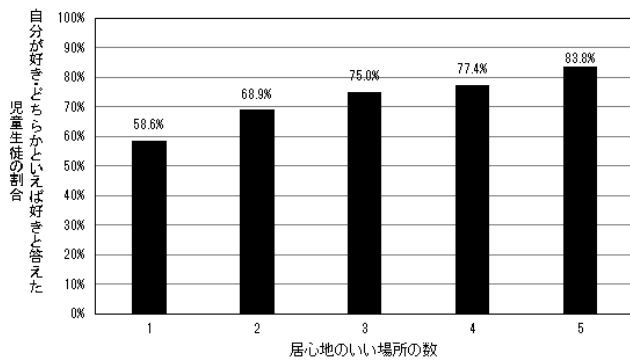


II クロス集計結果

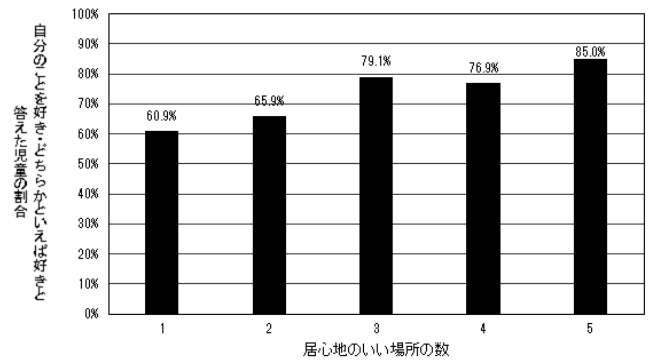
図62 ⑧問14「居心地のいい場所の数」と問8(1)「自己への評価」(報告書 P.115)

居心地のいい場所の数が多い子どもは、自己肯定感が高い傾向にある。

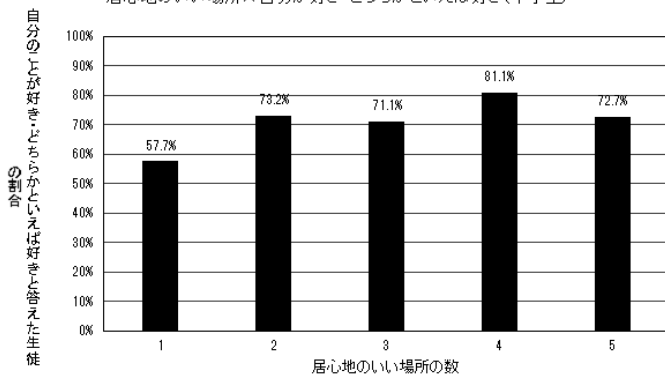
居心地のいい場所の数×自分が好き・どちらかといえば好き(全体)



居心地のいい場所の数×自分が好き・どちらかといえば好き(小学生)



居心地のいい場所×自分が好き・どちらかといえば好き(中学生)



居心地のいい場所×自分が好き・どちらかといえば好き(高校生)

